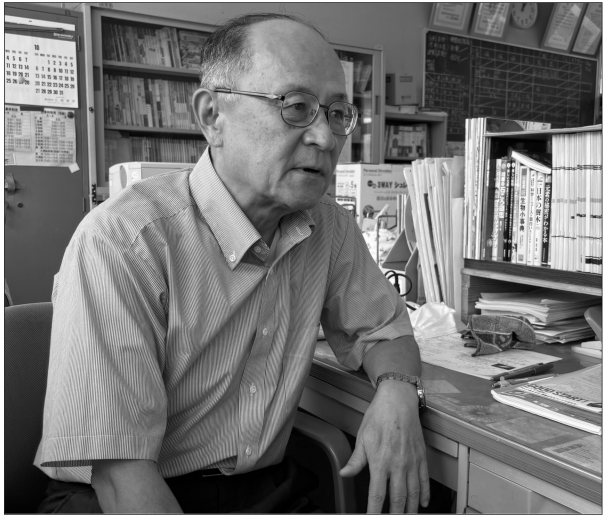


一高新聞300号突破記念特集



【在学時の学校の様子を語る古河先生】

甲府一高新聞は、ついに300号を迎えた。この記念すべき号において、新聞部OBの古河先生にインタビューを行った。古河先生には、甲府第一高校での経験や思い出、後輩たちへのメッセージを語ってもらった。長年にわたり一高に携わってきた先生の視点から、未来を見据えた貴重な話を聞いた。

Q. 新聞部での役割は？
A. 編集長でした。
Q. 当時の一高の様子は？
A. とても自由でした。昼食は校外に出られまして、頭髪服装検査の記憶もあります。2、3年時4月のクラス写真は、男子生徒が長髪のため、白黒写真のトーンが暗いのです。
Q. 今と昔を比べて生徒たちはどのように変わっていると思うか？
A. 今の生徒は学習・生活両面で、真面目な生徒がとて多いと思います。昔のほうが悪いことをした生徒が多かったかもしれないですね。私たちは、安保闘争後の『三無主義』

(無気力・無関心・無責任)が蔓延した「しらけ世代」等と言われました。
Q. 部活で特に記憶に残っている出来事は？
A. 朝8時には部室に行き、夜8時すぎに部活を終えるという生活でした。企画会議が延々と続き、先輩に何度も記事を直され、記事が完成しても見出しができません。放課後に気分転換を兼ねて校内中を歩きながら見出しをひたすら考えました。
Q. 部活を通して学んだことはあるか？
A. ものには多種多様な考え方・とらえ方があります。

新聞部の編集会議やクラスの友人などとの日常の何気ない会話の中から、いろいろなことに気づき、学ぶことができたと思います。
Q. 高校生活で得た一番の財産は何か？
A. やはり、多くの友人です。高校時代の友人は今もつながりが強いですが、また、一高の場合は卒業後も新たに会おう同窓生が多く、いろいろなことを教えてもらったり、助けてもらったりしてきました。
Q. 現在の一高新聞部、また一高生に伝えたいことはありますか？
A. 現時点でベストの選択をしてほしいです。将来は変わらざる。将来何をしたらいいかわからない、自分に合っている学びや職業がわからないと思っている人が多いと思います。今、自分を見つめて、一生懸命考えて、結論として選んだ道を堂々と進むこと。将来、方向転換が必要な局面に出くわしても、ベストの道を歩んできたのだから後悔しない。無駄になっ

甲府一高新聞

増刊号

発行所
甲府一高新聞部
甲府市美咲二丁目13-44

我々が学食

多くの一高生が利用する学食。山梨県内の公立高校では、日川高、甲府工業高、都留高と本高の四校のみで営業している。「食堂のおちゃん」として生徒に親しまれている長谷部よし子さんに取材を行った。長谷部さんは一高食堂を営業し始めて4年目だ。毎朝、食券の購入に来る生徒の話を聞くことや料理の感想をもらえると、完食してくるのときが嬉しいという。一方、短縮授業の日や利用する生徒の数が多いときなど、日によって状況が変わることが大変だ。

三位は焼き鳥丼(600円)、二位は煮カツ丼(600円)、そして一位がカツカレー(670円)であり、特に丼ものが人気だという。また先日、新紙幣の発行に合わせて食券販売機が一新された。それに合わせて新メニューとして、食堂では「豚キムチ炒め丼」(600円手・税込)が提供されている。長谷部さんに、今後取り組みたいことを聞いた。「現在はインスタグラムを利用してメニューや営業予定を告知しているが、それだけでなく、授業前に朝食としてラーメン等の簡単なメニューの提供や、放課後にコンビニエンスストアやカフェのような形態での営業も実施したい」と語った。



【学食を司る長谷部さん】

1位	カツカレー(670円)
2位	煮カツ丼(600円)
3位	焼鳥丼(600円)

【人気メニューランキング(上)と1位のカツカレー(右)】



7月、テレビには銀行前にできた行列が映されていた。20年ぶりに発行される新札が目当てだ。新紙幣を飾るのは、日本初の銀行を設立した実業家である渋沢栄一、国内初の女子留学生である津田梅子、世界に先駆け破傷風菌の純粋培養を成功させた細菌学者の北里柴三郎の3名である。順に一万円札、五千円札、千円札の顔だ。これに加え、10月1日現在

円安が大きな話題となっており、学生である我々にとっても経済が身近に感じられるようになった。東京に旅行した際の話だ。650円のお菓子を買うか悩んでいる私の横で、旅行客と思われる外国人の男の子が「たったの650円だっ。これも買おう。日本は美味しい物が安くていいね」と言い賑やかな声を持って行った。これが円安か、と衝撃を受けたのは

一高の至宝

一高には「至宝」ともいふべき絵画や書があることを知っているだろうか。そのうちのひとつが、縦92cm・横124cmと校長室の中でもひと際存在感を放つ日本画「鯉」である。この絵画は、本校(当時甲府中学校)の卒業生である望月春江によって、昭和21年ごろ制作された。イタリヤから購入希望があったものの、甲府中学の同級生が買い取って本校に寄贈したそう。

「鯉」が描かれたのは春江が42歳の時である。その後も春江は「惜春」など日本の美しい自然を描き続け、昭和53年には山梨県立美術館オープンの際に作品20点を寄贈した。自身の作品が美術館に飾られることに関して春江は大変喜んでいただとの記述が残っている。美術館に飾られている作品のうちの一つである「向日葵」を最後にその人生の幕を下ろした。

他にも本校には、第6代校長で元内閣総理大臣の幣原喜重郎の実兄、幣原坦による「培養國本」の書や一高創立80周年を記念して書かれた中村星湖の「渾然玉成」の書、一高創立90周年を祝した元自由民主党幹事長内田常雄の「巨木深根」の書、日米文化復興会長等を歴任した笠井重治の七絶書などが飾られている。



部説 円安は好機

記憶に新しい。円安とは、一般的にドルと円を比べてた時に円の価値が下がることだ。例を挙げると、1ドルの商品を買うのに必要な金額が円安が好機、の意味とは。実は輸出産業が主である日本にとって円安は売り時なのだ。海外からすれば、円の価値が低いことはその分日本の商品が安価であることを意味する。

出産業が主である日本にとって円安は売り時なのだ。海外からすれば、円の価値が低いことはその分日本の商品が安価であることを意味する。

百円から二百円に値上がりするような状況のことをいう。私たちが悩まされる物価高とはこの円安によって引き起こされている。一方「円安は日本

海外旅行者の増加によって見返りの量が変わる投資、と考えると分かりやすい。東京証券取引所によると個人が所有する株数の合計は9年連続過去最高を記録している。当然円安によって企業の景気が良くなるとその株を所持している一般消費者も得をする。これが好機という言葉の裏にある仕組みだ。

ここ最近の円安をどう捉えるか。経済を少し知るだけで、物価高の中

でも利益を生み出し有利に生きられる。まだ学生である私たちだからこそ、より経済について考え、お金の使い道や知識を増やす時間と機会があるのではないかと。冒頭の渋沢栄一はその功績から「近代日本経済の父」と称される。当記事を読んだ若者によって、これからの日本にも、私の財布にも、渋沢栄一がもって出てきてほしいものである。(坂江)

77年の変遷をたどる

～創刊から100号ごとの軌跡～



【開校と同時に配付された一高新聞創刊号】



【85年分の歴史を振り返る100号】



【第60回卒業授与式を報道する新聞】

一高新聞の記念すべき創刊号には、様々な特徴がみられる。その中でも大きな特徴として「学」をはじめ多くの旧

字が使われているという点が挙げられる。また、歴史的仮名遣いで表現されている言葉も多数見られる。記事の内容

としては、正課の授業以外に当時も欠かされた校友会(現在の部活動)の活動が詳しく取り上げられている。そ

して、現在定期的に行われている土曜学習もこの年から開催された。現在とは違い、生徒自ら選んだ授業に参加するという形式のも行われていた。伝統ある学校であることが改めて覗える紙面だった。

創刊号

1947年の出来事

1947年は現在の日本が創り上げられた年といっても過言ではないほど、様々な法制度が整えられた年である。そのもっとも重要なものが、

日本国憲法の施行である。日本国憲法は、小学校の社会科でも学習するため誰もが知っている。この憲法は、国民主

義の3つを基本原理として国民が自由で公正な社会を築き支えることを目指すために作られた。では、自由で公正な社会とは何だろうか。それ



【日本の基盤が作られた年】

は、多様な生き方を求める人々が、互いの生き方や考えを尊重し、共に協力しながら生きていくことが出来る社会を意味する。この憲法が施行された日から、主権が天皇から国民へと変化した。そのため、国民の意見がより反映されやすくなり、充実した日々を送ることが更に実現しやすくなった。さらに、日本国憲法に加え、労働基準法や独占禁止法など、産業や経済の枠組みを規定する複数の法が制定された。また、この時代に「ベビーブーム」という言葉が生まれた。第一次ベビーブームは太平洋戦争が終結し、結婚や出産が続いたことが原因で出生率が急増したことから、この言葉が流行した。少子高齢化が深刻化して大きな社会問題になっている現在とは異なるため、興味深い言葉である。

1965年の出来事



【レオノフと宇宙空間で浮いた紙】

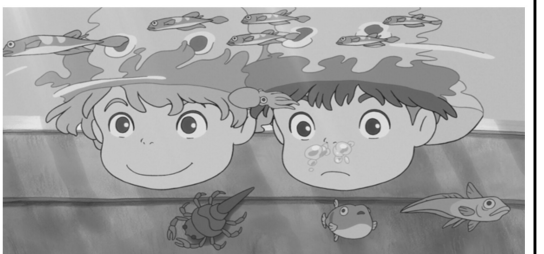
1965年3月8日は、一度は誰もが描いた夢であろう宇宙遊泳を、旧ソ連の宇宙飛行士であるアレクセイ・レオノフが人類で初めて成功させた日である。宇宙遊泳とは、宇宙服を着て宇宙船の外に出て活動することを指す。レオノフは、約十分間行ったと

されている。しかし、この短い時間の中には、様々なドラマがあった。気圧上昇で服が膨張し宇宙船に戻ることに困難となり、また酸素濃度の異常な上昇で爆発の危機が迫った。苦労がありながらも、人類で初めての成功を収めた輝かしい一年だった。

2008年の出来事

2008年といえばリーマン・ブラザーズという大手投資銀行グループが破綻、いわゆるリーマンショックが起こった年として記憶している人も多い。金融危機が世界中を覆うと同時に、日本人3名がノーベル物理学賞を獲得したり、私たち学生にとって馴染み深い名作が生まれたたりした年でもある。

日本では幼少期に、誰もが目にするジブリ作品だが、その中でも人気の高い「崖の上のポニョ」が生まれたのがこの年だ。魚の子・ポニョと宗介の絆を感じる物語である本作だが、日本での興行収入は150億円を超えており、当時流行した邦画ランキングで



【崖の上のポニョよりワンシーン】

2000号

2000号の紙面には、生徒の卒業を暖かく見守る言葉で

溢れていた。また卒業号の形式も受け継いでいる。